



【福音のため主の教会を散らす神様】

聖書本文:使徒の働き8章1-4節/暗唱聖句:第二テモテ 4:2

説教者:鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

蒸し暑さの中で愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！お元気でしたか？使徒の働き講解18回目の時間です。今日から使徒の働き8章に入りますが、使徒の働き8章は教会の歴史の大切な始まりを知らせています。つまり、イエス様は天に昇られる前、福音が宣べ伝えられる順序を言われましたが（1：8）その始めの段階である'エルサレム'の福音化は使徒の働き7章で話の締めくくりがつけられます。8章からは次の段階である'ユダヤとサマリア全土'にイエスキリストの御名が証しされる段階に入ります。舞台がエルサレムからユダヤとサマリアに移されたのです。

すると、どうやってイエス・キリストの福音が地の果てまで宣べ伝えられたのでしょうか？神様はこれを御使いたちにやらせないで、そして偉大なグループにやらせませんでした。ただ人の口をとおして、先に聞いた平凡な人々とおして宣べ伝えさせました。そのほかの道はありません。ですから福音はさきに聞いた人こそが伝えるべき責任があるのです。

使徒の働き7章まで読んでみると福音を一番さきに聞いた人々はいくともなくエルサレム教会の信徒たちでした。彼らはだれよりもさきにイエスキリストを信じて救われました。イエスにあって変えられ、新しくされました。肉の欲で生きていた彼らが御霊によって生きる者に変えられました。生き方も、品性も、性格も、生活も変わりました。人生の目的と意味も以前とはまったく変わりました。イエス様によって根本的な変化が起こったのです。このように福音をさきに聞いたエルサレム教会はエルサレムだけではなく、ユダヤとサマリアと地の果てまで福音を持っていく責任がありました。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん！

私たちも同じです。家族の中で、大体一番先に福音を聞いて、イエス様を信じているのではありませんか？それほど我々にもお重い責任があることを知らなければなりません。なぜでしょうか？我々の口を通してでなければ、家族に主の福音は証しされないからです。我々の口を通してイエスキリストが証しされなければ、我々の親、兄弟、子供たちは救われません。ある地域で、ある教会の信徒たちが先に福音を聞いて神様の御言葉を学んだなら、それなりの責任は重いのです。責任と言われると重いかもかもしれませんが、神様がさきに我々を救ってくださったのは、自分だけではなく、我々をとおしてもっと多くの人々が神様の恵みを頂いて救いに導かれるためなのです。

<迫害を通して散らす神様>

エルサレム教会も先にイエスキリストの福音と信仰をいただいたので、それほど責任がありました。そんなエルサレムの教会にステパノの殉教とともに激しい迫害が加わりました。この時期の迫害は短い期間ではありましたが、どんなに恐ろしかったのか、突然襲い掛かってくる嵐のようでした。3節に“**教会を荒らし**”だと表現されています。イエス様を信じる前、サウロからパウロになる前、青年だったサウロは教会とイエスを信じているクリスチャンたちを根元から取り除こうとしました。家々に入り、イエスキリストを信じる男も女も引きずり出し、次々に牢に入れ込みました。しかし、エルサレム教会の迫害は長く続きませんでした。その迫害に含まれている神様の御心がなされたからです。エルサレム教会にあった迫害の裏面（りめん）には神様の特別な目的がありました。それはエルサレム教会を散らすことでした。3, 4節を見ると、迫害のため一部は牢に入って苦勞されますが、残りの方々は散ってあっちこっちで福音を伝えたのが分かります。彼らが福音をもって散るように神様ご自身がそうさせたのです。エルサレム教会が散らされたこの出来事がある聖書学者たちはこのように解釈します。

“エルサレム教会の信徒たちが恵みによってイエス様を信じるようになったなら、救いの福音を伝える責任があったのにもかかわらず、毎日信徒たちが集まってパンを裂いて祈りだけに夢中になっていたため、神様は迫害という道具をとおして信徒たちを散らしたのである。”

実際、この解釈を100%受け入れるには若干無理ではあると思います。聖霊に満たされていたエルサレムの信徒たちが神様の御心をやぶりながらそんなに散らそうとしなかったのでしょうか？使徒たちのもとで神様の御言葉を聞いて、聖霊の特別な油注ぎによってイエス様の弟子となった人々が福音を地の果てにまで宣べ伝えなさいという神様の命令を知らなかったのでしょうか？迫害という強制的にむち打たれるまで彼らがそれほど不従順したかという解釈は言い

すぎだと思えます。

エルサレム教会の信徒たちも確かに福音を伝えるのに熱心でしたが、エルサレムにもっと集中していたと思えます。ただ、神様の時となって、もっと素早く、福音伝道のため迫害をとおしてエルサレム教会の信徒たちを散らされたとは私は信じます。すべてをおろして、ふりむかないで、散らされる一番良い方法として神様は迫害という道具を用いられたと信じます。

かりにみなさん、人々が集まって “あなたはサマリアに行け” “あなたはユダヤに行け” 話し合ったならどれだけ時間がかかったでしょうか？ですから迫害が時には必要な時があるかも知れません。迫害とは爆弾のように一度爆発させるといっぺんに散らすことのできる強力な方法でした。そのように足を運んだエルサレムの信徒たちはサマリアだけではなくユダヤ、そして地の果てまで行くようになりました。

“さて、ステパノのことから起こった迫害によって散らされた人々は、フェニキヤ、キプロス、アンテオケまでも進んで行ったが、ユダヤ人以外の者にはだれにも、みことばを語らなかった” (11:19)

ステパノの死後起こった迫害によって人々はどこまで散らされて行きましたか？

サマリアだけではありません。フェニキヤ、キプロス、アンテオケまでも進んで行きました。キプロスというところはいまのトルコの下にある大きい島です。要するにイスラエルを越えて他国にまで行ったのです。

アンテオケは異邦宣教の基地になった所としてここも異邦の地です。サマリアでもなく、ユダヤでもない他国まで人々は行って福音を伝えたのです。

いったいどれほどの人々が散らされて福音が遠くまで伝えられたのでしょうか？

使徒の働き2章40節で3000人が信じ、4章4節で5000人が信じたのだから、エルサレム教会の信徒たちは最低8000人ほどで、この数は男性だけでしたので、子供たちと女性を含めて考えると1万人の超えた人数だったと予想されます。そんなに多くの人々がいっぺんに散らされたのであればどんな勢（いきお）いで福音が伝えられたのかは少しでも予想できると思えます。

<散らされるのが祝福の通路となる>

迫害自体はとっても恐ろしいことですが、神様からみればさらなる祝福を与えるための通路になる場合もあります。初代教会だけではなく、教会の歴史においても、ローマ教会の迫害を耐えられなかったイギリスの清教徒たちがアメリカ大陸に渡って、今日世界宣教の主役になっているアメリカという国を建てました。韓国も日本の殖民時代政治的、宗教的迫害によって散らされたクリスチャンたちが中国、満州地域に行ってそこで多くの教会を建てました。われわれは時々“神様はあまりにも残忍な方だ。なぜこのような方法をとおして福音を広げようとされるのだろうか？”と思う時があります。もちろん、我々の立場から見ると、そう見えるかもしれませんが、神様は我々とは次元が違う智恵と力で働かれ、すべての状況を治めておられる方である事を覚えなければなりません。風が強くふいてタンポポの種があっちこっち散らされてまた芽が吹くように、神様はそのような方法を使われる時もあります。

もちろん迫害はあくまでもサタンの仕業（しわざ）です。迫害を神様が用いる時もありますが、迫害をとおして信徒たちを苦しめ、殺そうとする勢力はサタンです。迫害が始まる時はサタンが教会を勝てるように見えます。ステパノ執事を殺し、教会を荒らすため家々を探し、イエスを信じる者を引きずり出して、教会を散らす時、サタンのしもべ役をしていたサウロが勝利したかのように見えます。しかし、その後をみてください。神様の智恵をサタンは決して勝つことはできません。状況が完全に逆転されます。つまり、サタンは教会を全滅させようと迫害を加えますが、むしろ主の教会はあっちこっち散らされて新しい教会を生みます。エルサレムにだけいた教会が全各地に散らされて、それによって神様のご計画が成就されるきっかけになりました。悪魔は主の教会を破壊し、信徒たちが集まらないように妨げましたが、むしろ神様の御心は成就されました。そして、一番先頭に立って教会を迫害していたサウロはどうなりましたか？後に、このサウロがパウロと変わって、イエスキリストと主の教会を立てるのに大貢献する者になります。

愛する信仰の家族のみなさん！神様の国はかならず勝利します。サタンはイエスさえ殺されれば、神様の計画は失敗になると思ったかもしれませんが、神様はむしろイエスキリストの十字架の死によって全人類が救われる道を開かれました。日本でも初代教会の時代、多くの殉教者の血が流されれば、日本の地に主の教会がすべてなくなると思いましたが、むしろ福音の御わざがさらに起こるきっかけとなりました。

<散らされて死ぬ一粒の麦>

愛する信仰の家族のみなさん！主の教会が優先すべきことはなんでしょうか？なぜこの地上に主の教会を残してお

いたのでしょうか？それは福音伝道のためです。まず先に我々がイエスを信じるようになったのは福音伝道の証人とさせるためです。イエスを信じることで、家族が散らされてしまったり、職場を失ってしまったクリスチャンをみるとこの世の人々は敗北者だと思ったかもしれません。しかし、彼らは行くところ所福音を伝えることにキリストの証人として生きていた御国の勝利者たちでした。そうです。我々の教会も福音伝道に最優先を置かなければなりません。この世では成功しましたが、幸福ではなく、体は健康ですが、心は病気になり、お金はたくさんもうけましたが、むなしい生き方の人々、勉強はたくさんしましたが人生の目的と意味を見つけない人々、おモテは強がりを見せますが、中身は恐れと不安で震えている人々、死の恐怖の前で生きている人々、神様は先に信じた我々の唇を通して彼らを救っていきたくがっています。

[第二テモテ 4:2] みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。

イエス様を信じて永遠の命を得ましたか？そうするのであればこれからは福音の証人にならなければなりません。教会の中にいますが、いつも教会の外に向かっているといかなければなりません。時が良くても悪くても福音を伝えることに励んでいかなければなりません。我々が福音を伝えることに献身しないで、我々だけ教会に集まっていると、神様は神様の時に苦難と迫害をとおして我々を散らされるかもしれません。

“まことに、まことにあなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみかたです。

しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。” (ヨハネ12:24)

初代教会だったエルサレム教会の信徒たちは一粒の麦となってサマリアで多くの実を結び、ユダヤを越えてキプロス、アンテオケまで豊かな救いの実を結びました。

主が愛しておられる我々のクリスチャンプレイズチャーチもこの小牧に経たされた目的を覚えながら、この夏も熱心に集まりますが、同時にそれぞれ散らされると福音の証人として多く用いられるクリスチャンプレイズチャーチの家族となりますよう主の御名によって祝福します。アーメン！